

の案内で、富山城を中心に発
展した街を歩き、神通川を堀
として利用した痕跡などを
確認。その後、富山平野を一
分している呉羽山で、呉羽山
の成り立ちと神通川の変遷
について学びました。

昼食に神通川の恵みと言
われる鱧ずしを食し、午後は
江戸時代に養蚕で栄えた八
尾町へ向かい、街並み散策と
越中おわら節を鑑賞しツア
ーは終了しました。

ポストジオツアー「日本地質
学発祥の地 白峰と勝山で
恐竜時代にタイムスリップ」
閉会式後、化石と対話する
ジオ旅と称し、地質学発祥の
地と言われる白峰地区に向
かい、翌日、ロシアのライ
ン博士が植物化石を採取し
たとされる桑島化石壁を見

学。壁には大きな木化石があ
り、足元にも植物化石がゴロ
ゴロ、感激もひとしおでした。
次いで、白山恐竜パーク白
峰に向かい、館内見学後、桑
島化石壁付近でトンネル掘
削時に掘り出された、岩石

(数十年分の研究材料との
こと)の中から化石を探し出
す作業を体験。

午後は福井県勝山に移動
し、県立恐竜博物館を見学、
学芸員の熱いレクチャーを
受けたのち、自由見学。恐竜
化石、レプリカの大きさ、多

さに圧倒され恐竜時代にタ
イムスリップしたようだし
たが、本来ならば、発掘現場
で発掘作業体験をするはず
が、台風の影響で博物館見学
に変更になったのが少し、残
念でした。(内匠 五月枝、
田中豊、房州文子)

4月に文化財・ジオパー
ク室文化財班に着任しまし
た。私は銚子市に生まれ、今
はなま豊岡小学校、第八中学
校で学び育ちました。その後
大学進学と同時に銚子を離
れ、日本史や歴史資料の取り

扱いについて学び、この度久
しぶりに銚子に帰ってきました。

20年近く銚子で育つ中で、
銚子がどのような歴史をた
どり、どのような文化財が遺
されているのかを知らずに
来ました。

恥ずかしながら、余山貝塚
や中島城の存在も知らず、崎
山治郎右衛門など、銚子の発
展に尽力した人物の名前も
存じませんでした。また、銚
子の海岸の岩や地層が学術
的に価値の高いものだとい
りもしませんでした。

それはきっと私に限った
ことではなく、市内の多くの
方が知る機会もなく過ごし
ているのだと思います。
久しぶりに銚子に戻り、改
めて地元を見つめ直してみ
ると、今まで知らなかった銚
子の「凄さ」を知ることがで
きました。

これからは建物、民俗資料
無形文化財など多岐にわた
る分野の知識を蓄えなけれ
ばと、プレッシャーもありま
すが、どうぞよろしくお願
いします。



『紙本淡彩銚子名所絵図』より

「淡彩銚子名所絵図」の一部

令和3年10月、和歌山県
の風土記の丘という博物館
で、開館50周年記念特別展
あり、これに参加しました。
風土記の丘博物館は「海
に挑み、海をひらく」をテ
ーマに記念事業の開催を企
画しており、崎山治郎右衛
門の末裔にあたる銚子市三
崎町の江畑昇さんが所蔵す
る「外川由来記」という巻

「和歌山県立風土記の丘 開館50周年事業に参加して」 越川奏一

物と、「治郎右衛門夫妻の木
像」そして、「高神村内外川
浦、長崎浦、犬若浦
八手網船印」を記した
旗の絵図の3点を、特
別展示したいと考え
ておりました。

和歌山県の学芸員
は千葉県立中央博物
館の学芸員に協力を
依頼し、千葉の学芸員
から親交のあった海
鹿島で美術館をお持ち
の越川行雄さんに
協力依頼がありまし
た。治郎右衛門の末裔
の江畑昇さんと私が
懇意にしている事を
知っていた越川行雄
さんは、和歌山県と千
葉県の学芸員と私を
伴い4人で江畑家を
訪れ、展示出品を勧め
ました。江畑さんは

「門外不出の家玉」と
亡父君より言い渡さ
れており、出品を渋ってお
られました。私達の説得
を聞き入れ出品して頂ける
ことになりました。その時
目が不自由であった私です
が、出品した時は紀州まで
一緒に見に行こうと説得し
たのです。そんなことがあ
って、丁度1年前の10月に
開催された50周年記念の
特別展に参加する事になっ
たのです。



崎山治郎右衛門夫婦木像

特別展は展示だけではな
く大学教授による「紀州漁
民の関東出漁と醤油」とい
う特別講座があったり、楽
しく過ごしました。
このことがジオパーク勉
強会の「紀州海民の東国進出
について」の話に繋がり、勉
強する機会を与えられたこ
とに感謝しています。